

## 神父様……ごめんなさい

「発情シスターに精液補給、これも立派な救済です」

■ 1……ごめんなさい。神父様

【シスター】

……あ。

目を醒まされましたか、神父様。

どうぞ、横になっていてください。

神父様は、倒れていらしたのです。

……はい。

ここは教会です。神父様は、この建物の前に倒れていらっしゃいました。

森の、かなり奥にある教会ですので、神父様をご存じでないのも当然だと思います。安全な場所ですから、どうぞご安心ください。

特に怪我などはされていませんでしたが……どうされたのですか？

……分からないのですか？

そう……ですか。

意識が急に、吸い込まれるように無くなった……。それは、不思議ですね。

あの……どうして神父様は、この森にいらっしゃったのですか？

深い森ですし、たまに魔物もいるので、危険だと思うのですが……。

魔女……？ この森に、魔女が出るといってお話が……？

その調査のために、いらしたのですか。

そう、なのですか……。

……い、いえ。私は、魔女なんて、存じ上げません。

は、はい。毎日、この教会で暮らしていますが……魔女の気配など、決して。いえ……お役に立てず、申し訳ございません。

あ……神父様。どうされました？

目を覚まされたばかりなので、安静になさっててください。  
めまいを感じるかと思えます。お体もまだ力が入らないでしょう？

……い、いえ。お顔を見ていると、そうではないかと思ひまして。

この教会から、近くの村までは二時間ほどかかります。

今のお体で歩くのは辛いかと思ひますし……そろそろ日も暮れて参りました。

もし、神父様さえよろしければ……本日は、ここに泊まっていかれてはいかがですか？

はい。そのベッドは、元々来客用のベッドですので、普段は使われておりません  
ですので、何も問題はございません。

……いかがですか？

……はい！ ありがとうございます。

ふふっ。誰かとお話するのは、とても久しぶりです。

私、嬉しいです。

あ……少し、不謹慎でした。申し訳ありません……。

神父様は遊びに来たわけではないのに……。

……いえ。そう言っていただけだと嬉しいです。

……はい。为什么呢？

わ、私のこと……ですか？

え、ええと……それは、その……。

この教会は……い、家のようなもので……。

えっと、わ、私は……し、シスター、みたいな、ものです……。

し、シスター・ロベルタと申します。改めて、初めまして。

え、ええっ！？ そ、それは……その……。確かに、誰もこない場所ですけど……。

でも……私は、ここにいないと、いけなくて……。

その……うう……。

……。

神父様？

ひよっとして……急に眠くなってきたのではありませんか？  
いえ……。何も、不思議なことはありません。

眠いのでしたら、そのまま、お眠りください。  
いえいえ。不思議なことなんて、何も……。  
きつと、お疲れが溜まっていたんですよ……。  
おやすみなさい、神父様……。

……ごめんなさい。神父様。  
ごめんなさい……。

■ 2. いい夢をご覧になってください

【ロベルタ】

……んっ、あ……んっ、はあ、あ……。  
あ……っ、はあ、はあ……んっ、はあ、あ……っ。

だめ、なのに……わかってる、のに……。指、止まらないの……っ。  
んっ、はああ……っ。あっ、あ……っ。

神父様……私の、こと……ちゃんと、見てくれた……。

目を見て、話してくれた……っ。

疑われちゃった、みたいだけど……でも、泊まってくれるって、言ってた……っ。  
私のことを知ろうと、してくれた……っ。

すごく……嬉しかった……っ。

だから……軽蔑なんて、されたくない……。嫌われたく、ない、のに……っ。

でも……っ。気持ち、いいの……っ。

いじるの……止められない、の……っ。

ごめんなさい……っ、神父様、ごめんなさい……っ。

んっ、あっ、ふあああ……っ。あっ、あっ、はっ、んっ、あっ、はあああ……っ。

あ……で、でも……神父様、ぐっすり、眠ってる……っ。

全然、起きない……

私の、力、よく効いてる、みたい……。

これ、なら……大丈夫、かなあ……っ。はあ、はあ、はあ……。

ちよつと……ちよつとだけ、触らせて、もらっても……っ。ん……っ。

あーん……っ。

はあ……。

あ……っ、耳い……っ。すっごく、美味しく感じる……おいしいよ……っ。

あーん……っ。

ふはあ……っ。

ん……っ、こつち、も……っ。

はあ……。

あ……っ。

お、男の人の、味……っ。

すごい……っ。えへ……っ。

舐めながら……、い、弄るの……すっごく、気持ちいい……っ。

指……奥まで、入っちゃう……ぐちゅぐちゅ、しちやうの……っ。

どんどん濡れてきてる……シート、汚しちやう……っ。

んっ、あっ、あっ、はああ……っ。んっ、あっ、あっ、あ……っ。

み、耳、舐めても、起きなかった、から……。

これも、大丈夫、だよね……っ？ ん……っ。

き、キス……っ。

はあ……。

あ……っ。

き、キス、しながら……ぐちゅぐちゅ、するの……っ。

頭、真っ白に、なる……っ。

これ、すごい……すごいよお……っ。

シート、ぐちゅぐちゅああ……。

もう、止まらない……。

ん、はあ……。

神父、様……口、開けてくれない、かな……

舌、絡ませたい……べろちゅー、したい……。

あ、そっか……私のほうから、こじ開けちゃえば、いいんだあ……っ。

ん、はあ……。

ん……っ、はああ……。

あ……体、熱い……。すごい、きちゃって、るう……っ。

ん……っ、あ……っ。

神父様あ……っ。見たいよお……っ。

お……おちん、ちん……。

神父様の、おちんちん、見たい……っ。

で、でも……見ちゃったら、絶対……

止まらなく、なる……っ。  
もう、自分で弄るだけじゃ、済まなく、なっちゃう……っ。  
おちんちん、ハメハメ、ぱんぱん、したくなっちゃう……っ。  
は、早く、イかないと……っ。  
戻れなく、なる……っ。

あ……っ。きた……っ。熱いの、きた……っ。  
イク……っ。イキたい……っ。イキたいの……っ。  
ああ、おちんちん見たい……おちんちん欲しい……おちんちんでイキたい……っ。  
でも、絶対、ダメ……っ。ダメだから……っ。  
き、キスだけで……我慢……っ。

ん……っ。んんんんんんんん……っっ!!!  
ん……っ。ん、ん……

は、あ……。

あ……イ、イッちゃ、ったあ……  
い……今まで、した中で……一番、気持ちよかった、かも……。  
男の人がいるだけで……こんなに、感じちゃうんだ……。  
はあ、はあ、はあ……。  
神父様は……ゆっくり、おやすみに、なっているのに……。  
私……いやらしいことだけ、考えて……。  
はあ、はあ、ふう……。

ごめんなさい……ごめんなさい、神父様……。  
私のせいで……こんなに……。  
ごめんなさい……。

シート、汚しちゃいました……。  
周り、拭いていかないと……。

……せめて、いい夢をご覧になってください。神父様……。  
……ちゅっ。  
失礼します……。

■ ♪ はあ……美味しいです、神父様……

【ロベルタ】

……あ。

お、おはようございます……神父様。

お加減は、いかがでしょうか。

そうですか……それは、よかったです。

お部屋の机に、朝食を置かせていただきましたが、お召し上がりになれましたか？  
美味しかったですか？ あ……、ありがとうございます。

はい。一応、私が焼いたパンですので。そう言ってもらえると、嬉しいです……

……きやつ！

あ……ありがとうございます、神父様……。

あ、あはは。少し、ぼーっとしていました。申し訳ありません……。

……あ、はい。ここは、礼拝堂……です。

神父様がいらっしゃるまで、朝のお祈りをしていました。

少し古くて、ところどころ壊れていますけど……でも、お祈りは、できますから。

その……神父様は、まだお帰りにられないのですか？

あ……。い、いえ、お礼なんて……！

私はただ、余っていたベッドをお貸しただけですから……。

何かお手伝い、なんて……。神父様に、そんな……。

……。

そこまで仰るのですたら……一っだけ、よろしいでしょうか？

はい……。といっても、そんなに大変なことではないのですが……

誰かが教会に来たときのために……この礼拝堂で待っていていただけませんか？

私は……他に、どうしてもやらないといけないことがあって……。

はい。本当に、待っているだけで結構ですので。

……ありがとうございます。

では……私は、少し、失礼します。

用事を、済ませて参りますので……。

……。

もしもし。

神父様？

寝てしまった……でしょうか？

可愛らしい寝顔……。

頭、失礼しますね、神父様……。

……えいっ。

膝枕、です。ふふ……。

寝たフリ……ではない、ですよ？

……大丈夫そうです。

神父様……。

とても、素敵なお顔です……。

いえ、お顔だけではなく……お体も、大きくて、しっかりしていて……

立派な大人の男性、という雰囲気……

お慕い申し上げます……神父様。

教会の前で、初めて出会ったときから……お慕いしておりました。

そのせいで、体の発情を抑えることができて……

自分で、慰めてしまいました……。

でも……とても、気持ちよかったです……。

あんなの、初めてのことでした……。

お慕いしている方が近くにいる、というだけで……

あそこまで、快楽が強くなるものなのですね……。

ああ……いけません。

神父様と、ただ触れ合いたかったから、膝枕をしただけなのに……

可愛らしい寝顔が、目の前にあるなんて……。

また、夜のことを、思い出してしまいます……ん……。

ダメ、です……。だめ、だめ……。

ああ……私、私……

神父様……愚かなロベルタをお許してください……

はあ……。

あ……。神父様の唇……美味しい……瑞々しいリンゴのような味……。



頭が、とろけてしまします……。

ん……はあ、はあ、はあ……。

神父様……全然、起きません……。眠りが深いほうなのでしょう……？  
も、もう少しだけ……触っても……。

上半身、だけなら……

失礼します、神父様あ……。

あ……

神父様の、お胸……

ぷっくりした、可愛らしい、乳首です……

お、起きない、かな……？

触らせて、もらいますね……。

くり……くり。

こり……こり。

ん……。

体、ビクって反応した……

でも、目は、閉じたまま……起きてはいないみたい。

大丈夫そう……。なら、もうちょっと強くしても……

くり……くり、くり、くり……。

ん……乳首、ちよっと、固くなってきました。

摘まんたら、こりこりって感覚がします。

すぐく……いやらしいですよ、神父様あ……

片っぱだけじゃなくて……両方とも、触りますね……。

指で摘まんて……くり、くり、くり、くり……。

手のひらで、転がしたり……。

きゅううううって、引っ張ってみたい……。

あ……。神父様の体、震えました……。いやらしい夢でも、見てるんでしょうか？  
ふふ……。

ん……乳首、もっと固くなった……。

もう、カチカチになってます……。

ああ……とっても、美味しそう……

こ、これだけやって起きないんだったら……大丈夫、だよね……？  
神父様の体、少し持ち上げれば……私の舌、届きそう……。  
よい、しょ……。

いただき、ます……。

あーん……

はあ……。

あ……。舌で、乳首の固さ、感じます……。  
すごい……。元気いっぱいいの、敏感な乳首……。  
美味しいです、神父様あ……。

あーん……

はあ……。

あは……。片方だけだと、もう片方の乳首が、寂しそうです……。  
大丈夫ですよ、今、ペロペロしますから……。  
こっちの乳首は……吸い込むようにして……。

あーん……

ふはあ……。

あはあ……。美味しい、美味しいですよ、神父様あ……。  
私のツバで、てらてら光ってて……乳首、すごく、いやらしい状態です……。

はああ……。

はあ……。美味しいです、神父様……。

……。あ。

神父様の、股間……。ふ、膨らんでる……。？  
体が、反応してるの……。？ち、乳首、弄られて……。  
でも、起きてるわけじゃないみたい……。  
自然に、こうなっちゃうのかな……。

ああ……。見たい、です……。男の人の、あそこ……。お、おちんちん……。

神父様の……どんな、形なんだろう……。  
だめ、だめだめ……。見たら、絶対、戻れなくなる……。  
で、でも……神父様、ずっと、寝てる……。  
今しか、チャンスは、ないかも……。

……。あ。

こ、これが、神父様の……

お、おちん、ちん……。

おつきくて、固く、なってる……。先っぽ、真っ赤……。なんだか、苦しそう……。  
これ、触っても、大丈夫、なのかな……。？ 爆発したりしないかな……。

……。し、失礼します、神父様。  
ん……

あ……熱い……。手、火傷しちやいそう……。

それに……。こんなに、固くなるんだ……。鉄の棒みたい。  
おちんちんって、すごい……。

確か……。このまま、擦（す）ったりして……。おちんちん、気持ちよくなるんだよね……。  
真っ白い、精液っていうのが出て……。それが子種になるって、聞いたこと、ある……。  
このまま、手で擦れば……。出してくれるかな……。？  
見たいな……。おちんちんから、精液、出るところ……。

……。え？ 声……。？

今のって……

あ……。し、神父様……。お、起きてるっ！？  
わわっ！？

ごごご、ごめんなさいっ、ごめんなさいっ！

お許してください、神父様っ！

ごめんなさい……。っ！

ううう……。っ！

■ 4.では……精液、いただきます……

【ロベルタ】

……。

申し訳ございません……神父様……。

弁解の余地もありません……。

全て、私が悪いのです……。

本当に……。

……はい。ご説明、させていただきます。

神父様は、昨日……この森に魔女が出る、というお話をされていましたが……その魔女、というのは……おそらく、私のことだと思います。

正確には、魔女ではなく、魔物、というべきなのでしょうが……。

私は、こう見えて、サキ ユバスなのです。

……はい。そうです。

あまり、魔物っぽい容姿ではないのは、私が人間とサキ ユバスの混血……

ハーフサキ ユバスだからでしょう。

それでも、サキ ユバスの力は、ある程度持っているのです……

この教会に、幽閉されているのです。

……はい。確かに、幽閉といっても、束縛されているわけではありません。ただ、これは、私の一族にかけられた呪いのようなもので……

この森の中までは自由に動けるのですが、その外に出ることはできないのです。

おそらく、森の中に一人で暮らしている私を、誰かが発見して……

魔女がいる、という噂になったのかと思います。

……はい。この体は、あまり食事が必要としないので、生きていく上では困りません。教会の裏に小さな菜園を作っていますし、たまに獣がここに迷いこんでくるので、どうしても空腹を感じたときは、それを狩って食べていました。

ですが……一っだけ問題はあって……

たまに、発作のように、サキ ユバスの血が騒ぎだしてしまうのです……。血が騒ぐと、性的欲求……つまり、その、性欲が増してしま……。

いやらしく、なってしまうのです……。  
夜は、それが更にひどくなります……。

いつもは、その……ひ、一人で慰めているのですが……  
神父様がいらっしゃったことで、我慢できなく、なってしまうて……。  
つい……姦淫 かんいんを、行ってしまうところでした……。  
本当に……申し訳ありません。

……し、神父様。  
私のこと……村の方々に、ご報告なさいますか？  
正直……何も、弁解はできません。

私はこのまま、ただ一人で暮らしていつて、孤独に朽ちていくつもりでした……。  
でも、とうとう、人間に……神父様に、危害を加えてしまいました……。  
その罪は、万死に値するかと思えます……。  
覚悟は、しております……。

……。  
……はい。  
サキユバス化を止めるのは、そんなに難しくありません……。

……その。男性の方から……せ、精液を、いただければ、治まります……。  
ただ、治まるのは、あくまで一時的なものなので……  
定期的にもらわなければ、なりません……。  
は……はい。純血のサキユバスのように……  
男性から、精を全て奪い取って、死なせてしまうようなことは、ありません。  
ただ、神父様の精液をいただくだけで……普通に、暮らすことが、できます……。

……あ。  
お、恐れ多いことを、言いました……  
申し訳ありません……！  
神父様……。どうぞ、私を、煮るなり焼くなり、好きに処理してくださいませ……。  
殺されるのは……正直、怖いですが……。  
でも、神父様は……私に、とっても優しくしてくださいました。

まっすぐ目を見て、話してくださいました。  
だから……最後に、素敵な思い出ができましたから……私は……

……。

……はい。

え……

本当、ですか？

精液を……いただいても？

も、もちろんです。とても、嬉しいです！

それだけで、サキユバスの血を抑えて暮らすことができます。  
で、ですが……。

……神父様。

私に、同情してくださったのでしょうか。

ありがとうございます……ございます。

では……その。

恐れながら……精液を、いただこうかと思います。

神父様……

あ……。どうか、動かないでください……。全て、私がいたしますから……。

神父様の、ここ……小さくなってしまっています……。

まずは、大きくしないとけませんね……

神父様……もし、お嫌でなければ……

先ほどのように、膝枕の姿勢になっていただいても、よろしいでしょうか？

……はい、ありがとうございます。

ん……。

はあ……。

口づけ……とても、素敵です……。頭、真っ白になって……体中が熱くなります……。

あ……神父様の、ここ……お、おちん、ちん……。

だんだん、固くなってきました。

むくむくと、立ち上がってきています。  
素敵です、神父様……。

では……おちんちん、握らせて、いただきます……。  
はい……。それから……しごいていきますね……。  
ん……、しょ……ん……。

しこ……しこ、しこ……しこ、しこ……しこ……。

このようなしごき方で、大丈夫でしょうか？  
痛かったり、辛かったりは、しませんか？

あ……はい。サキユバスの本能として……やり方自体は、分かるのですが……。  
その。実際にやった経験は、ありませんので……。  
痛くはない、ですか？

分かりました。このまま続けさせていただきます……。

しこしこ、しこしこ……。

神父様の、おちんちん……どんどん、固くなっていきます……。  
それに、とっても熱くて……手で握っていられないくらいです……。

強く握れば握るほど、敏感に反応を返してきて……

とっても素敵なおちんちんです……神父様。

もっともっと、気持ちよくなってください……。

しこしこ、しこしこ……。

あ……先っぽ、くちゅくちゅして参りました。

先走り、というものですね？

透明なおつゆが、おちんちんの先っぽから出てきています。

すんすん……。はああ……。

こもった、いやらしい匂いが、してきました……。

遠慮しないで、気持ちよくなってください……。

神父様。よろしければ、顔、こちらへ向けてもらえますか？  
はい……。

はあ……。

あ……おちんちん、ビクビクしています。  
神父様は、口づけ、好きですか？  
私も……大好きです……。

はあ……。

あ……おちんちん、震えています……  
神父様の息も荒い……。

精液、あがってききましたか？

はい、いつでもどうぞ、神父様。

私が、左手で受け止めますから……。

気持ちよくなることだけ考えて、びゅるびゅると精液を吐き出してください……。  
では、強くしごきます……。

ん……っ。

しこしこしこしこ、しこしこしこしこ……っ。

あ……はい、どうぞ、神父様あ……っ。

ん……っ、あっ、ふあああ……っ。

あ……すごい……

左手に……びゅるると当たっています……。

勢い、強い……手が痛くなるくらい、飛んできています……。

ふああ……熱い……。

あ……もったいない、です……。おちんちん、最後の一滴まで、出してください……。  
しこ、しこ、しこ、しこ……。

ん……射精、落ち着きましたか……？

はい……。

では……精液、いただきます……。

ずーっ、ずっ、ずずーっ。

ん……

ちゅる……ちゅっ、ちゅるる、ちゅるる、ちゅう……。

……こくんっ。



こく、こく、こく、こく、こく……  
こくん……っ。

ふはぁ……。

神父様……精液、いただき、ましたぁ……。

とっても、濃厚で……ねばねば、して……匂いが強くて……  
頭、くらくらするくらいで……。

美味しかった、です……。

ごちそうさま、でしたぁ……。

ん……はぁ、ふう、はぁ……。

……ふう。

ありがとうございます、神父様……。

おかげさまで、サキユバスの血が、だいぶ落ち着きました。

おちんちん、汚れてしまいましたね……。今、お拭きいたします。

あの……神父様は、いかがでしたか？

おちんちん、気持ちよかった……ですか？

……。

はっ。わ、私、一体、何を聞いてるんでしょうか……っ！

申し訳ありません！ 神父様は、私に協力していただいただけなのに……！

はいっ！ おちんちん、拭き終わりました！

神父様！ 本当に、ありがとうございます！

わ、私……お、お昼ご飯を、作ってきます！

失礼しますね！

■ 5.私、我慢できないんです……

【ロベルタ】

神父様……

起きていらっしやいますか……。

失礼いたします……。

眠っていらっしやいます……。可愛らしい寝顔……。

ああ……ですが、神父様に近づけば近づくほど、感じます……。

すんすん……。

はああ……。

射精した後の、おちんちんの、匂い……。

ほんのわずかですけど……でも、確かに感じます。

すんすん……ああ、いい匂い、です……。

……申し訳ありません、神父様。

先ほどは、精液さえ吸収できれば、サキユバスの血は治まると申しましたが……  
精液をいただいたのは、初めての、ことなので……

……体の火照りが、まったく治まらないのです……。

神父様は、今日もこの教会に泊まってくださいました……。

きっとそれは、私の監視も兼ねているのだと思います。

けれど……

引き続き精液をいただける、と思っても、いいのでしょうか……？

神父様……ごめんなさい、ごめんなさい……。

私、我慢できないんです……！

あ……。

神父様の、おちんちん……。

まだ、小さいままですけど……

すうう……。はああ……。

ああ……精液の香り……。頭、くらくらしてしまいそうです……。  
とっても、美味しそう……。  
いただき、ます……。

あーん……

はああ……。

あ……おちんちん、びくっと反応しました……。  
むくむくっと大きくなっていきます……。  
神父様……もう一度、私に精液を飲ませてください……。  
温かいお恵みを、ください……。

あーん……

はあ……。

でも……私ばかりいただくのは、申し訳ないですから。  
神父様にも、気持ちよくなっていたきたいです……。  
先ほど、乳首もよく感じていたようですから……いじらせて、いただきます……。  
ああ……神父様の、ぷっくり膨れた、可愛い乳首……。  
くりくり、くりゆ、くりゆ……。

はあ……。

あ……。  
先走りの味が、いただきます……。  
感じていらっしやるんですね。嬉しい……。  
激しく、じゅぼじゅぼいただきますから……気持ちよくなってください、神父様あ……。  
乳首も、くりくり、くり、くりい……。

ん……っ、んんんんんん……っっ！  
ん、ん、ふ、う……。

こく……こくっ、こくっ、こく……。

ん、はあああ……。

あ……精液、とても、濃いです……。

刺激的な味で……舌が、痺れてしまいそう……。

美味しい……

ああ……でも、だめです……。

せっかく、精液をいただいたのに……全然、体の疼き、治まりません……。

今度は……わ、私のここのほうが……

はあ、はあ、はあ……。

だ、だめ……。

ん……

神父様……まだ、起きていらっしやいませんか……？

な、なら……大丈夫、かな……？

神父様……

私の、ここ……

お、おまんこ……

慰めて、ください……。

ん……っ、あ……っ、あ……ふあ……っ。

あ……っ、神父様の、お顔に……

っ、私の、いやらしいところ、こすりつけちゃってます……っ。

んっ、あっ、あああ……っ。

いけないこと、なのに……っ。ああ、なんでこんなに、気持ちいいの……っ。

んっ、あっ、あっ、はっ、あっ、ふあああ……っ！

あ……っ。そこ、んん……っ！

神父様の、舌、動いてます……っ。あっ、ひあああ……っ！

夢でも、見ていらっしやるのでしょうか……っ。んっ、あ……っ。

あっ、あっ、あっ、んっ、あ……っ。

あ……神父様の、おちんちん……っ。

さっき出したばかりなのに……まだ、むくむくしてきてます……。

神父様も……興奮していらっしやるんですね……。

嬉しい、嬉しいです……っ。

私も……この体勢のまま、ご奉仕させていただきます……。  
お互いの、いやらしいところを舐め合いましょう……。

ん……っ。

はぁあ……。

あ……っ、神父様の、舌あ……っ。  
お肉、かきわけて……っ、おっ、おまんこの、中……っ、届いてきてますう……っ。  
ふぁあ……っ。すごい、すごいです……っ。  
私も、お返し、します……っ。

はぁ……っ。

あ……っ、や、だぁ……っ。そこ、弱いんです……っ、くっ、クリトリスう……っ。  
それ、されると……っ、私、わたしい……っ。  
んっ、はっ、ふぁあ……っ。  
あ、でも、おちんちん、もうビクビクしてる……っ。  
私も……っ、いっぱい、じゅぼじゅぼしますから……っ。  
神父様……っ、また、精液だして……っ。

ん……っ、ん、ふううううううう……っ！！！  
んっ、ん、あ、は、あ……。

ん……っ。

こく……こくっ、こくっ、こくっ、こくっ。  
はぁあ……。

に……二回分も、いただいちゃいました……神父様……  
ごちそうさま、でした……。

それに……お、おまんこ……  
イッ、イッて、しまいました……。  
とても、気持ちよかったです……えへへ……。  
ありがとうございます、ござい、ました……。

……。

……あれ。

……この、息遣い……

……ひよつとして、神父様……

起きて、いらつしやいます……？

……あうう。

も、申し訳、ございません……

また、やってしまいましたあ……。

■ 6.まだ、全然足りないの……

【ロベルタ】

昨晩は、申し訳つ、ありませんでしたっ！

今度こそ、何も、弁解の余地ありませんっ！

今すぐ、教会に突き出されても、何も文句は言えません……。うう……。

……あ、ええと、はい。

精液を、何度もいただいたので……あの後、体が疼くことはありませんでした。朝までぐっすり眠ることができました。……ありがとうございます。

……はい。そう言っていたけると、助かります……。本当に、すみません。

恐れながら……

もし、神父様が、私のことを街の教会に報告する気がないのであれば……

そろそろ、村に帰ったほうがよいかと思います。

……というのも、ですね。

精液をいただくたびに、確かに、サキユバスの血は治まるのですけれど……

それとは別に……今度は、神父様のお顔を拝見するたびに……

その……いやらしいことをしているときの、気持ちよさを思い出して……

股間が、疼くようになってしまって……

だから……神父様にご迷惑でしょうし……

そろそろ、お帰りになったほうが、よいかと思えます……。

……はい。今も、私のここ……お、おまんこ、疼いてしまっています。

朝だというのに……神父様の傍にいますと、もう、体が熱くなってしまうんです……。

ですから、神父様……どうか……

……え？

はあ……。

あ……神父、様……

よろしいのですか……？

今日も……精液、いただいても……

あ……。嬉しい、です……。ふふ……

では、お言葉に、甘えさせていただきます……。

神父様。そちらのベンチに、横になってください。

私が、全ていたしますから……。

精液をいただける代わりに……

私も、一生懸命、神父様が気持ちよくなれるように頑張ります……。服、失礼いたします。

ん……。あ……。

神父様の、おちんちん……。もう、大きくなっています。

私のために、固くしてくださいましたのですね。

嬉しい……。

はあ……。

ふふ……。まずは、乳首から、失礼しますね。

あーん……

はあ……。

神父様の乳首……。相変わらず、敏感で、とても可愛らしいです……。すぐに固くなっています……。

反対側も……。あーん……

ふはあ……。

あ……。えへ。おちんちん、もっと固くなった気がします。

乳首、気持ちいいんですね、神父様あ……。

ん……。おちんちん、真っ赤になって、苦しそう……。

すぐに、ご奉仕しますからね……。

すんすん……。ふああ。

おちんちんから、昨日の精液の匂い、します……。美味しそうな匂い……



あーん……  
はあ……。

美味しい、です……。神父様のおちんちん、美味しい……。

あーん……っ。  
ふはあ……。

あ……そうだ。神父様。  
私、神父様に、もっともつと興奮して、気持ちよくなってもらいたいです。  
だから……

……ご覧ください。  
私の、おっぱい……  
いかが、でしょうか。おそらく、そんなに小さくはないかと、思います。  
……綺麗、ですか？ えへへ。ありがとうございます……。  
よろしければ……神父様も、私のおっぱい、お召し上がりになりませんか？  
……はい。

では……どうぞ。

ん……っ。  
んっ、あ……っ、はっ、あ……ふあ、あ……っ。んっ、あ……

えへへ……神父様が、私の乳首、ちゅうちゅう吸い込んでます……。  
美味しいですか？ 神父様あ……。  
はい……私も、乳首ちゅうちゅうされるの、とっても気持ちいいです……。っ。  
遠慮しないで、ちゅばちゅば、ペロペロしてください……。

んっ、あっ、あっ、あっ、ふああ……っ、あっ、あ……。  
神父様のおちんちんも、しこしこ、しますね……。

しこ、しこ、しこ、しこ……。  
あ……。もう、先走り、いっぱい出てる……。  
おっぱいをお召し上がりになりながら、しこしこされるの……好きですか？

ふふ……神父様、可愛い……。  
一生懸命ちゅぱちゅぱしてる……赤ちゃん、みたい……。  
あ……。ふふ。恥ずかしがったりしないでください、神父様……。  
これは、私のためにしていただいていることなんですから……。  
神父様は、何も考えず私に、どんどんいやらしく甘えていいんですよ……。

しこしこ、しこ、しこ、しこ……。  
ん……。っ、あ……。おちんちん、びくびく……。  
もう、射精しそうですか？  
はい、お願いします……。

このまま、おっぱいに甘えながら、たくさん出してください……。  
んっ、あっ、あっ、ふあ、あ……。んっ、あっ、あ……。  
しこ……。しこ、しこ……。しこ、お……。しこ、しこ、しこお……。

ん……。はい、射精、どうぞ……。

ん……。っ、あっ、ふああ……。っ。  
あ……。っ、精液、いっぱい……。まだ、出てる……。  
最後まで、出してください……。  
ん……。はあ、はあ、はあ……。

……。射精、落ち着きましたか？  
ふふ……。では、いただきますね……

ん……。んちゅ、れろ、れろ、ちゅう、ちゅう……。

……。こくっ、こくっ、こくっ、こくっ、こく……。っ。  
ふはあ……。  
はあ……。美味しいです。精液、美味しい……。うっとりします……。  
はあ、はあ、ふう……。

あ……。うそ、なんで……。？  
こんなに、出してもらったのに……。  
まだ、全然足りないの……

やだ……おちんちん、もっともっど欲しいって、思っちゃってる……  
神父様、神父様あ……。

ん、あ……お願い、します……。じっとしてて……  
はあ、はあ……

おちんちん……まだ、固い……

おまんこ……もう、ぐちゃぐちゃに濡れてる……  
入れようと思ったら……このまま、入っちゃう……

でも、だめ……それだけは、ダメ……

セックスは……好きな人と、しないと、いけないから……

神父様に、迷惑、かかっちゃう……。

それだけは、嫌……いやなの……。

ん……はあ、はあ……はあ……

でも……おまんこ、欲しい……おちんちん、欲しい、よお……。  
擦りつけることだけでも……許してください、神父様あ……

ん……っ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あ……っ。

あ……だめ、精液、飲んだとだと……敏感に、なってる……。  
おまんこ……また、濡れてきちゃうの……

んっ、あっ、あっ、あ……。

音、鳴ってる……恥ずかしい……っ。

あんっ、あっ、あんっ、あ……っ。

でも……っ、腰、止められないよお……っ。

んっ、あっ、あっ、はっ、あっ、あ……っ。ふああああっ！  
これ、だめ……っ、私、もう……おまんこ、イ、く……

あ……っ、ふああああああああ……っ！

あ……っ、はあ、はあ、はあ……

イッちゃい、ましたあ……おまんこ……

精液の味で……いっぱい、興奮しちゃいました……  
ぐちゃぐちゃ、どろどろ、です……はあ、はあ……

あれ……おまんこ、暖かい……

ひょっとして……神父様。また、出してくれたんですか？ 精液……

連続で、こんなに早く、出しちゃうなんて……

私、サキユバスの力で、催淫 サイイン しちゃったんでしょうか……？

そんなつもり、なかったのに……。

でも……嬉しい……嬉しい、です……。

この精液も、いただきますね……

ん……れろお、れろお、れろ、ちゅぴ……

こくっ、こくっ、こくっ、こく……

ふはぁ……。

ごちそうさま、でした……。

精液……すごく美味しかったです。

ありがとうございます、神父様……。

■「神父様……大好きです……」

【ロベルタ】

神父様……

お、お話が、あります……。

よろしいでしょうか……？

今まで……お昼に、サキユバスの血が疼くことなんてありませんでした。  
なのに、今は、どうしようもないくらい、発情してしまっています……。  
どうしてだろうって、私、考えたんです。

わ、私……

神父様が、好きです……。

好き……好き。好きなんです。

この体のせいで、長い間、誰とも話してなくて……  
顔を合わせたとしても、馬鹿にされたり怖がられたりすることばかりで……  
こんなに優しくされたの、初めてなんです。

……こんなこと言うの、虫がよすぎるって自分でも思います。

いえ……違うの。違うんです、神父様……。

本当は……神父様が教会の前で倒れてしまったのは……わ、私の、せい、なんです……。  
神父様が、急に眠くなったのは……サキユバスの、催眠能力のせい、なんです。  
誰かが、教会の近くにいるって分かったら……会ってみたいくて……  
お話したくて、しょうがなかったから……。

気づいたら、使ってしまった……。

それから、この教会でお泊りになられてから神父様が眠くなってしまうのは

……本当にごめんなさい！

許して欲しい、なんて言いません。

私は……きっと、処分されることになるでしょう。

でも、せめて……この気持ちだけでも、お伝えしたかったんです。

それが、私が今まで生きてきた、唯一の理由だと思うから……。

私……優しくて温かい神父様が好き。大好き……

離れたく、ないです……。  
神父様……

きゃっ。

あ……し、神父様……

ん……っ。

はあ……。

あ……神父様……

ゆ……許して、いただける、のですか……？

でも……わ、私は……神父様に、ひどいことをしてしまったのに……。  
ああ、だめ、です……。

いけないことなのに……  
嬉しくて、嬉しくて、しょうがないんです……。  
神父様……神父様あ……っ。

【ロベルタ】

……神父様。

起きていらっやいますか？

今、よろしいでしょうか……？

……はい。失礼します……

……神父様。

また、精液を、よろしいでしょうか……？

……。

申し訳ありません。今のは……嘘、でした。  
はしたないことだって、思ってます。

でも……今は、サキユバスの血が、疼いてなんかなくて……

ただ、私が……神父様に、抱いていただきたいから……

来ただけなんです……。

神父様……

ん……っ。

ん、はあ……。

あ……神父様……

えへ……。

はい、たくさん、ご奉仕させていただきます……。

服、お脱がせますね……。

あ……

神父様の、おちんちん……もう、大きくなっています……。

神父様も、私で、興奮していただけているんですね。嬉しい……  
はい。まずは、お口でご奉仕、します……。

あーん……

はあ……。

神父様のおちんちん……美味しいです。濃い味がして、すごく、美味しい……  
はあ……。

ふふ……おちんちん、びくびく暴れていらっしやいます。

もう、お口では押さえきれないですね。

あ、では、こういうのはどうですか？

私も、服脱ぎますね……

ふふっ。ほら、神父様のお好きな、おっぱい、です……

このおっぱいで……えいっ。

おちんちん、挟んじやいましたあ……

私のおっぱい、いかがですか？

やわらかーいおっぱいの中に、おちんちんが、ゼーんぶ埋まっちゃってますよお……

このまま、おちんちんを……ずーり、ずーり。ずり、ずり、ずり……。

私のツバと……おちんちんの、先走りで、よく滑りますよお……

んっ、あ……すごい……

おっぱいの中で……いっぱい震えていますっ。

気持ちいい、って言うてくださってるみたいで……可愛らしいですっ。

ずーり、ずーり。ずり、ずり、ずり……。

ん……っ。あ……でも、おちんちん、ずーっと暴れ回ってます……。  
暴れてると、おっぱいで、ぎゅーってできないですよ？  
めづ、です。おちんちんさん……っ。

もっと、おっぱいで、抱きしめちゃいますから……っ。

ぎゅっ、ぎゅっ、ぎゅーっ。

おっぱいで……ぎゅー……っ。

ん……っ。

先っぽ真っ赤で、今すぐ爆発しちゃうそう……。

先走りも、どろどろで……おっぱい、びしょびしょです。

神父様？ ひよっとして……もっと、したい……んですか？

……あ、はいっ。

分かりました。

では……おっぱい、外します……。

腰の上、失礼しますね……

ん……。

あ……

わあ……神父様の、おちんちん……

熱さが、伝わってきます……。

はあ、はあ、はあ……

神父様……分かりますか？ 私の、ここ……おまんこの、感覚……

何も弄ってないのに、ぐちゃぐちゃに蕩けてます……。

ご奉仕したら、こうなっただけ……

神父様のおちんちんが、欲しくて……

もう、我慢できません……

いただきます、ね……

ん……っ、んっ、んっ、ん……



んっ、ふあああああああ……っ。

あ……っ、はあ、はあ、はあ……。入りましたあ……。

あ……すごい……。おつきすぎて……おまんこ、全部、埋まっています……。  
固い……。っ。

うっ、動きます、ね……。

ん……っ。

んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ……っ。

あ……っ、奥まで、届いて、ます……。っ。神父様の、おちんちん……。  
固くて、素敵な……。お……っ、おちんぼ……。っ。

おまんこに、ぴったり、ですう……。っ。  
私のおまんこは……。このおちんぼと出会うためにあつたんですね……。っ。  
嬉しい、嬉しいです……。っ。

んっ、んっ、んっ、あっ、あっ、ん……。っ。

ふはあ……。っ。

あ、はい……。っ。私、セックスなんて、初めてです、けど……。  
全然、苦しくなんてなくて……

気持ちいいんです……。っ。

おまんこいい……。っ。おちんぼ気持ちいいの……。っ。

きゅんきゅん、しちやってるんです……。っ。

んっ、んっ、あっ、あっ……

好き……。っ。好きっ、好きっ。

神父様好きっ。好きなのっ。好きっ、好きっ、好きっ。

いやらしいこと好きっ。おちんぼ好きっ。神父様が、好き……。っ。

んっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あ……。っ！

ふあああっ、んっ、あっ、あっ、はっ、あっ、あ……。っ！

おちんぼ……。っ、ちんぼ、いいよ……。っ。

あ……っ、神父様の、息、荒いです……っ。  
イキそう、なんですね……っ。

お願いします……っ。精液は、私の、中に……っ。おまんこに、ください……っ。  
一滴残らず、おちんぼからびゆるびゆる注ぎ込んでください……っ。  
えへへ……っ。精液、搾り取っちゃいますね……っ。もっと、激しく……っ。

んっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ、んっ、あっ、あっ、  
あっ、あっ、はっ、あっ、あっ、あ……っ！  
はい、いっぱい、出して……っ！

あ……っ、ふああああああああああ……っ！！

あ……っ、は、あ……は、あ……  
中、出てるう……っ、奥に、びゆるびゆるって……たくさあん……  
あったかい……おまんこ、いっぱいになっってます……

はあ……。

……神父様。

えへへ……おまんこ、とっても、気持ちよかったです……。  
ありがとうございます……

はあ……。

神父様。ぎゅーっとしても、いいですか？  
……はい。

……えへへ。  
私、幸せ……。

神父様……大好きです……。

■ 8.これから、ずっと一緒にいましょうね……

【シスター】

あ……神父様。外にいらしたんですね。  
教会の中にいらっしやらないから、探してしまいました。

……はい。とても、いい朝です。  
よく晴れていて……空気も澄んでいます。

……。  
さっき、教会の中に神父様がなくて……  
私を置いて、帰ってしまったのではないかと……少しだけ、不安になりました。  
疑ってしまって、ごめんなさい。

ん……

神父様……

いえ、旦那様あ……。

私……また、発情、してるんです……

よかったら、抱いて、もらえませんか……？

はい……。キスしたら、もっと我慢できなくなりました……

このまま……教会の外で、抱いてください……。

ふああ……。

あ……っ。旦那様……私の、おっぱい、触ってます……。

んっ、あっ、ふああ……っ。指、優しい……私、もっと興奮しちゃい、ますよお……。  
お返し、ですっ。えい……っ。

ふふ。旦那様の乳首の場所は、もう、分かってますから……っ。  
ここでしょう……？　こり、こり……くり、くり……。

ん……っ、あ……っ。

やだ、服、脱がされちゃった……

旦那様……？

あっ、ふああああ……っ！

い、いきなり……っ、おっぱい、ちゅばちゅば、なんて……っ。

やだぁ……乳首、吸わないでください、旦那様ぁ……っ。  
もう……っ、いたずらっ子、です……っ。えへへ……っ。

私、だって……旦那様の服……脱がしちゃい、ますから……。

ん……っ。あ……。

出ただけで、分かりますよぉ……おちんぼ、ガッチガチになってる……。  
ひよっとして、旦那様も、したいって思ってくれてたんですか……？  
えへへ……嬉しいです。

じゃあ……もう、入れても、いいですか……？

あ……っ、おちんぼ、私の入り口、ぐちゅぐちゅしてます……。  
んっ、あっ、あ……っ。カリ首が、クリトリスに当たって……  
っ、これ、すごく、気持ちいいです……っ。  
んっ、あっ、ふぁあ……っ。あっ、あ……っ。

あうう……っ、でも、どうして、入れてくれないんですかぁ……っ。  
分かってますよね、旦那様ぁ……っ。

私のおまんこ、もうトロトロなんですよぉ……っ。

お肉、ぐちやぐちやで……溶けちゃいそうなんです……っ。

我慢できないです……おちんぼ、欲しいです……っ。旦那様の、ちんぼ……っ。

ん……っ、あっ、ふぁあ、あぁあぁ……っ！

あ……っ、入って、き、たぁ……っ。

あっ、はっ、あ……、ふぁあぁあ……っ。

あ……っ。は、あ……

あ、ごめん、なさい、旦那様……倒れちゃい、ました……。

ふふ……支えて、くれるんですね……。

私たち……ぎゅーって抱き合いながら、セックスしちゃってます……

この格好、恥ずかしいですけど……すごく、温かいです……

はい……動いてください、旦那様ぁ……

ん……っ、んんん……っ！

んっ、あっ、あっ、んっ、あっ、はっ、あっ、んっ、あっ、あっ、はあ……！

あ……っ、これ、すごい、です……っ。

ぎゅーっ、してる、からあ……っ。体、全部くっついてて……っ。

すごく、温かいですよ……っ。

好きって気持ち、溢れちゃう……

旦那様あっ。すき、好き……っ！

おちんぼっ、おちんぼっ、おちんぼ……っ。

大好きなおちんぼ……っ。

んっ、あっ、あっ、はっ、あっ、はっ、あっ、んっ、あっ、ふああ……っ！

んっ、んん……っ！

はあ……っ！

あ……っ！旦那様……っ！

もう、出ちやいそう、ですか……っ？

嬉しいですよ……っ！

私のおまんこは、もう、旦那様のものですから……っ！

何回でも、何十回でも、出してほしいです……っ！中出し、欲しいの……っ！

んっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あ……っ！

ふああああああああああ……っ！

あ……っ、あっ、は、あ……っ、んっ、あ……

はあ、あ……。

中出し、いただきました……。おまんこ、いっぱい……。

……でも、旦那様。

おちんぼ、まだ全然……小さくってない、ですよ。おまんこの中で、固いままで。もしよかったら……このまま、連続でしちやいますか？ しましょう？

お願いします。旦那様

……はいっ。

あ……。体勢、変えますか？

はい……。えっと……壁に、手をつくんですか？

こう……？

えっと……ま、まさか、後ろから、しちゃうんですか？

う、うう……。後ろからなんて……私の、いやらしいところ、丸見えです……。

……私のお尻、見たいんですか？

恥ずかしいです……

でも、旦那様は、私のお尻に、見とれてくださってたんですね……。

旦那様が、喜んでくださるなら……えへへ。

んっ、んんんんんん……っ！

はあ、ああ……っ！

また、入ってきましたあ……っ！

さっきと、全然、大きさ変わってない、です……っ。

おちんぼ、すごい……っ、旦那様あ……っ！

んっ、ふあああっ！

んっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あ……っ！

あ……っ、この、体勢、すごい……っ、です……っ。

全然、違う……っ。ごりゅごりゅって、おちんぼが、奥に届くの……っ。

どちゅどちゅ、子宮叩かれちゃってる……っ。

ん……っ、はい、旦那様の好きな、お尻……っ、たくさん、触ってください……っ。

んっ、はああああ……っ！ あっ、あっ、あっ、あ……っ！

おまんこ、気持ちいい、気持ちいいですよ……っ！

気持ち、よすぎて……っ、こっ、怖いくらい、です……っ！

旦那様のお顔、見られない、からあ……っ！ 不安に、なるの……っ！

何も、分からなくなるくらい、幸せで……っ！

こんなの、嘘じゃないかって思っちゃうの……っ！

だっ、旦那様は……っ！ 元々、私のことを、処分するつもりで、きたから……っ。

こんな幸せが、続くはずないって、思っ……っ。

いつか、お互い、離れ離れになるって、思っちゃうの……っ。

嫌っ、そんなの、嫌です……っ。

旦那様とずっと一緒にいたい……っ。一緒にいたいよお……っ。  
ここで、ずっと一緒に暮らしたいです……っ。

旦那様っ、旦那さまぁ……っ！

ん……っ！

はぁ……っ。

あ……っ、旦那様……っ。

ここに、いていただけるんですね……っ。私と……っ。

嬉しい……っ。嬉しいです……っ。

ずっと一緒に暮らしましょう……っ。

それで……毎日、ぎゅーっして過ごしましょう……っ。

旦那様とだったら……ずっと、いやらしいことして過ごしてもいいです……っ。  
ずっとセックスしてたいです……っ。

好き……っ、旦那様好き……っ。

大好き……っ。好き好き好き……っ！

あ……っ。腰、早くなった……っ！

旦那様ぁ……っ。イクんですね……っ。

はいっ、お願いしますっ。全部、中に注ぎ込んで……っ。

私のおまんこに、旦那様の匂い、刻んでください……っ。

旦那様、私の名前を読んでください。

ロベルタって言いながら旦那様の精液を私の中にください……

もっと、もっと沢山、名前を呼んで私を可愛がってください！

あっ、んっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あ……っ！

ふああああああああああ……っ！

あ……っ。は、あ、はぁ……っ。

ん……

はぁ、あ……。

えへ……。――

好き、好きです……。好き、好き、好き……。

……。旦那様。

さっき、言ってくださったこと……。嘘じゃない、ですよ？

……。はいっ。

ありがとうございます……。私、生きててよかった……。

もう私だけの愛しい人

これからも、ずっと一緒にいましょうね……。

旦那様。

愛しています。